ひきこもり支援対策
オンラインシンポジウム
新しい学校の会

次世代を担う人材を育成するための学校教育、研究、および学校経営の在り方を探求・実践しているのが「新しい学校の会」（新学会、本部東京・千代田区）だ。この新学会が3月20日、進路情報研究センター・ライセンスアカデミー（本社東京・新宿区）の運営協力のもと、オンライン教育シンポジウム『通信制高校生の社会参画―継続的支援の実現に向けて―』を開催した。

令和4年度のシンポジウムでは、通信制高校卒業生調査を過去7年間にわたって独自に実施してきた第一学院高等学校（茨城県高萩市）のキャリアサポートセンター室長・青山真理氏から調査経過や調査による波及効果などの事例紹介がなされた。

第一学院高等学校の青山真理室長（右）と竹下淳司副理事長

一方、新学会では令和3年度に引き続き、加盟通信制高校14校の卒業生を対象とする進路状況調査「第2回通信制高校卒業生アンケート調査」を実施。その結果報告も行われた。今回は、第1回調査と同様に卒業して2年後と7年後の卒業生を対象に、令和4年11月中旬～令和5年2月中旬に調査を行い、4023人からの回答が得られた。

2回目を迎えた新学会のアンケート調査では、前回調査で「卒業時進学」とひと括りにしていたものを、卒業時の進学先を「4年制大学」「短大」「専門学校」「公共職業訓練校」という4区分に分けて調査。このうち卒業時に、「進路未決定」「4年制大学進学」「専門学校進学」となった生徒に焦点を当てた報告がなされた。新学会の事務局長で、学びリンク株式会社（本社東京・千代田区）の山口教雄代表は「第1回、2回の調査を通して卒業生はカウンセリングや就労などの支援を強く求めていることが分かりました。しかし、この支援を高校の教職員に求めるのは限界があります。外部機関との提携などを考えていただくと良いのでは」と、通信制高校卒業後のサポートの安定化を願う発言がなされ、調査報告をまとめた。

それぞれの立場から意見を交換して支援につなげる

続くパネルディスカッションでは、不登校特例校・岐阜市立草潤中学校（岐阜市）で「こころの校医」を務める加藤善一郎氏、10代から30歳程度までを対象に支援を行う「家族支援ネット♪らるご♪」（京都市）代表で、公認心理師・臨床心理士でもある福本早穂氏、文部科学省初等中等教育局児童生徒課の神崎拓真氏、厚生労働省社会・援護局地域福祉課専門官の松浦拓郎氏、鹿島学園通信教育グループを運営する学校法人鹿島学園（本部茨城・鹿嶋市）理事長の大森伸一氏が参加し、社会参画のための有効な支援について話し合った。例えば、不登校やひきこもりの生徒に対し、親子や家族など、当人の身近な存在が専門機関との懸け橋になるような家族間向けの支援であったり、自治体にひきこもりの相談窓口を設置、明確化し周知させたりするなど、各パネラーの立場からさまざまな意見が交換された。専門的な機関による支援の強化から、身近な人々を通じた支援まで、多面的な施策の実現を模索する新学会。それぞれの理由で心を閉ざす人たちを社会とつなげる取り組みに今後も注目だ。

『大學新聞』第214号（令和5年4月10日発行）掲載